

質問者	質問事項	質問要旨	答弁者	答弁要旨
上里 総功	バーデハウス久米島について	バーデハウス久米島は、平成16年6月オープン以来7年目に入っている。今まで、町民の医療費の軽減化と観光客誘客に大変努力してきたと思われませんが、いまだに単年度黒字が達成されていない。平成22年度、第8回定時株主総会資料によると、減価償却費を含む収支損益は1413万1406円損失(赤字)となっている。オープン以来累積した損失(赤字)は、平成22年度で2億9120万2312円に達し、経営が厳しい状況である。今後の経営について伺いたい。	町長	バーデハウス久米島は、平成16年6月オープン以来7年目に入っている。今まで、町民の医療費の軽減化と観光客誘客に大変努力してきたと思われませんが、いまだに単年度黒字が達成されていない。平成22年度、第8回定時株主総会資料によると、減価償却費を含む収支損益は1413万1406円損失(赤字)となっている。オープン以来累積した損失(赤字)は、平成22年度で2億9120万2312円に達し、経営が厳しい状況である。今後の経営について伺いたい。
上里 総功	町道整備について	町道儀間32号線は、儀間川の橋の上は舗装されたが、川沿いの道路は整備されていない。平成7年、15年、17年、22年と今まで質問をし、一貫性のない答弁をもらっておりますが、今後の整備計画について伺いたい	町長	質問にあります町道32号線の整備につきましては平成22年第9回定例会で答弁したとおり、儀間川総合開発事業の関連事業では出来ない事が明確になりました。また、町の起債事業での整備についてもかなり厳しい状況にあります。現状として道路整備等ハード的な整備については、町の財政状況からすると補助事業での整備しかないと思っております。補助事業メニューを調べてみると対応が可能なのは通常の道路整備事業に加え臨時交付金事業、また、国の方針が明確ではありませんが一括交付金事業等々が考えられます。それらの事業を視野に入れ早急に採択できる事業を導入し整備に向けて努力いたします。
仲村 昌慧	ハブと有害鳥獣対策について	ハブ対策については、今年度も当初予算で100万円計上したが、わずか3ヶ月間でハブ買取を締め切ることになった。今後は、予算を増額し継続して捕獲駆除を進める必要があると思うが、ハブ対策について町長の考えを伺いたい。次に、有害鳥獣については、これまで対策を講じてきたにも拘わらず、農作物に甚大な被害を与えている状況である。有害鳥獣対策について伺いたい。	町長	ハブ対策については、12月補正で予算を計上し継続して買い上げを行います。有害鳥獣につきましては、カラスとシロガシラの被害の情報が2件ありました。カラスの対策としましては、捕獲器で対策しております。また、シロガシラにつきましても、捕獲器及び防鳥ネットの設置で食害を回避することができますので、今後産業振興課と連携し農家へ啓蒙していきます。
仲村 昌慧	綱曳きについて	綱曳きについては、今年度から担当部署を決めて、行事が出来るよう取り組むとしているが、進捗状況を伺いたい。	町長	綱引き復活についてはプロジェクト推進室で担当することになりました。実施時期については一番重要な稲ワラの確保の見通しが立ってから決定したいと思えます。現在、与那原町役場へ使用後の綱の譲渡が可能か、そして伊是名村役場へ収穫後の稲ワラの確保が可能か打診中です。また、宇仲地の水田からの供給が可能か米農家に打診中です。
宇江原 総清	鳥島射爆撃場の早期返還について	1997年の米軍による鳥島での劣化ウラン弾射爆事件が発覚した時、米軍の第一声は「劣化ウランは放射能ではない」との虚偽宣伝だったと言う。米軍の虚偽を暴露し劣化ウラン弾による内部被爆の危険を訴えたのが、琉球大学名誉教授の矢ヶ崎克馬氏である。矢ヶ崎氏は、放射性原子を含む埃を飲み込んだり、吸い込んだり体内に取り入れた場合の内部被爆の危険性を指摘している。今回の東日本大震災に伴う福島第一原発事故の放射性物質の危険性は、風向きによっては300kmも飛散させる事も判明してきた。鳥島における劣化ウラン弾射爆事件も同質のものと、私は考えている。そこで2点伺う。 (1)町長は何故、鳥島射爆撃場を振興策と言う名のもとに、国に売り渡したのか。 (2)町長は、劣化ウラン弾による町民の命や健康被害をどう考えているのか。	町長	(1)鳥島射爆撃場については、今年3月に予約の同意に応じました。これについては、法制度上同意を拒否しても強制収容され、国と全面対決になり、町の振興策に影響が生ずると、予約をした上で国との信頼関係を構築し、町の振興を進めながら県知事等と連携して早期返還を求めていくのと、どちらが早期返還につながり、また、町民の利益になるのかを総合的に考えて判断したものであります。 (2)劣化ウラン弾による町民への健康被害については現在も文部科学省による放射能検査が年1回行われており、その結果異常がありませんので健康被害は無いものと考えております。

質問者	質問事項	質問要旨	答弁者	答弁要旨
宇江原 総清	コンクリート護岸の撤去とこれに伴う潮害防備保安林等の植栽について(河川を含む)	今回の台風2号によって、シンリ浜のコンクリート護岸の一部、約100mも決壊した。これを機会にシンリ浜のコンクリート護岸の見直しと、仲泊、大田一帯の河川や海岸のあり方を考えるべきであった。町議会にも相談すべきであった。そこで伺う。 (1)自然の破壊と一次産業の衰退について (2)これを要因とする人口減少(特に子どもや若者の減少。高校生を含む)について	町長	質問でございます同護岸の復旧につきましては、管理者である沖縄県に確認したところ、災害復旧事業なので当初断面で復旧するというところであります。コンクリート護岸と一次産業の衰退については、因果関係はないと思います。
宇江原 総清	町の人材育成について	久米島高校の現在の生徒数は204名で、分校化等のボーダーラインが240名としている。減少傾向の生徒数に人口の減少は加速的になっている。学校予算について、22年度が全体の8.3%、23年度が7.8%となっている。フィンランドやブータン王国のように、人材育成から久米島町の再生を図るべきと考える。そのためには学校予算の比率を高めて人材育成を優先すべきと思うが、町長の考えを伺う。	町長	本町の教育予算の比率が比較的低いのは、現在、老朽校舎の改築等の建設事業が行われていないためであります。その理由については、現在、久米島町立幼稚園・小学校・中学校統廃合検討委員会を設けて統廃合について検討しているところで、これがある程度方向性が決まらなると事業をスタートさせることが難しいということでもあります。ある程度の方向性が決まり次第、老朽校舎の改築等教育環境の整備に努めてまいります。また、人材育成については、奨学金制度の充実や新たにできた前村幸秀人材育成基金の活用、児童生徒の派遣費補助の充実など人材育成に努めてまいります。
幸地 良雄	町のギネスブック作成について	最近の世相をみると、自然災害や景気の落ち込み、また痴呆の増加や自殺者が増えるなど暗い面が多く、明るい話題が乏しい社会環境にあると思う。こうしたことから、町民が肩の力を抜き遊び心を取り入れ、心を和ませるということでギネスブック作成を提言したい。まず、町民から町民ナンバーワンを募集し、その都度それを町広報誌に掲載し、何年後にギネスブックとしてまとめてはどうかと思う。来年度は町政10周年の節目にあたり、それを記念して取り組んでほしいと思うが、町長の見解を伺いたい。	町長	久米島版ギネスブック作成については大変よい提言だと思います。例えば運動競技であれば、既にある体育行事の記録が、産業関係であれば産業まつりの記録が利用できると思います。どのようなものが登録できるかは今後、検討してみたいと思います。
幸地 良雄	農産物加工施設整備事業について	農産物加工施設整備事業については、今年当初予算案に計上されていたが、事業計画について議会への説明不足と内容に問題があると指摘され、農業振興は大切だとしつつも対案、いわゆる内容の修正案も示すことなく、その事業計画そのものを削除し予算案が修正された。町長は今後、農家所得の向上及び農業振興についてどう考えているか。また、その事業計画を復活させる考えはあるのか。町長の姿勢を伺いたい。	町長	農産物加工施設整備事業については、原料確保や運営主体などの問題が指摘されて歳出予算が修正されており、事業内容を修正して事業を実施することは困難だと判断いたしました。今後の農業振興については、露地野菜の栽培技術の向上や他作物との輪作体系も含めて農業経営の改善策を図り、農業所得の向上を図っていききたいと考えています。農産物加工施設の事業計画については、今後、事業ができるような環境が整いやすいように検討していきたいと考えています。
崎村 正明	マイクロバス(29名乗り)購入予定は	久米島町は以前はマイクロバス(29名乗り)が2台あり、これまで色々な行事に利用されてきた。しかし、現在は1台もないため、特に少年野球チーム、バスケット関係の受け入れ、老人クラブ、保育園児の弁当会、運動会練習の送迎等に大変支障があるようだが、島を活性化させる為にも、町民始め保護者はもちろん小学校の現場の先生方も是非必要だとの声がある。早急に購入できないか伺いたい。	町長	町保有のマイクロバス(29名乗り)は、平成23年度に10名乗りのワゴンに車種を変更しました。変更の理由は、管理上の問題と、民業圧迫の問題があったからであります。今後は、新しく購入した10名乗りのワゴン車と現有の8名乗りのワゴン車で対応し、2台で対応できない場合は民間のバス等の借り上げで対応するようにいたします。
喜久里 猛	教育行政について	久米島高校の存続は離島町である久米島では絶対必要だと思うが。町長・教育長はどう考えるか。	町長 教育長	久米島高校は定員数240名に対し、在籍数は204名と厳しい状況にありますが、離島における県立高校の意義は大変大きく、町民・保護者が見守る中、子ども達が安心して進学・社会人となる為に学習できる久米島高校は将来も当然あるべきものと考えます。

質問者	質問事項	質問要旨	答弁者	答弁要旨
喜久里 猛	一括交付金について	町長は一括交付金について賛成か。一括交付金が実施されれば、補助金交付規定をクリア出来なかった工事や理由付け出来なかった事業も可能になると思うが。どう考えるか。	町長	一括交付金については、主体的な地域経営が実現することで、地方自らが創意工夫を発揮でき、地域の活性化にも繋がるものとして大変期待されています。ほとんどの首長が総論としては賛成しています。しかしながら、交付金の総額、どの程度自由度の高いものとなるか、県と町の割合、市町村間の配分方法などの詳細については、未定でありますので、その動きを注意深く見守りながら迅速に対応したいと考えています。
饒平名 智弘	さとうきびの春夏植えの土壤農薬助成事業について	町はさとうきび春夏植えの土壤農薬助成事業の廃止が検討されているようだが、そうすると農家の負担が増加する。さとうきび農家が減少している中、この事業を打ち切ると、さらに減少する可能性があるため、この事業は存続していく必要があると思う。町長の考えを伺いたい。	町長	農薬補助については、基本的には共同防除事業を中心に事業を進めていく考えではありますが、現状においてはさとうきびの生産が大変厳しい状況にありますので、さとうきびの春植え、夏植えの土壤病害虫防除の農薬補助については、継続して事業を実施していきたいと考えています。
饒平名 智弘	銭田橋の架橋工事について	銭田橋が通行止めになり、銭田、イーフ、島尻の住民は大変不便な思いをして生活をしている。橋の架け替え工事はいつ始めるのか。町長の考えを伺いたい。	町長	銭田橋の通行止めにより地域の皆様には大変ご迷惑をおかけしている事を深くお詫び申し上げます。この橋梁整備につきましては現在平成24年度新規事業の採択に向けて作業を進めているところでございます。